



TITLE:

司会

AUTHOR(S):

田中, 猛夫

---

CITATION:

田中, 猛夫. 司会. 日本外科宝函 1989: 23-23

ISSUE DATE:

1989-12-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/204406>

RIGHT:

## 司 会

福井赤十字病院副院長 田 中 猛 夫

本日、水本龍二先生には「胆道癌治療の現況と問題点」について、お話をうけでございますが、先ずは、先生のご近況を中心として御紹介を申し上げます。

先生は、旧制の第四高等学校を経て、金沢大学医学部を昭和30年3月に御卒業になり、同大学の第二外科に入局されました。昭和40年に本庄先生が京大教授として御就任なされますと共に、京大外科教室に入局されました事がつい昨日の事の様に思い出される訳でございます。本学の第一外科講師、助教授を経て、51年9月に三重大学医学部の第一外科の教授、62年4月から本年3月までは、同大学の附属病院長を併任なさっておられます。内外の学会の多くの役員をなさっておりますが、あまりに多うございますので割愛させていただきます。特に肝胆膵を中心としての御業績が多い訳でございますが、昭和35年、36年の日本対癌協会癌研究奨励金を受けておられます。また、昭和54年度には、「肝切除成績向上を目指して、特に残存肝機能予備力の術前評価に関する研究」に対して日本医師会医学研究助成費を受賞されております。私は常に胆癌生体を念頭においた、先生の外科医としての御姿勢に敬服いたしておる次第でございます。又、総会特別講演も多々ございます。主催されました研究会も数多くあるわけでございますが、本年は、第18回日本胆道外科研究会を主催されましたし、来年2月には第35回日本消化器外科学会、7月には第21回日本膵臓学会を御準備中でございます。今日は、本年8月に第25回日本胆道学会で本日御同席の土屋先生の御司会のもとになされました特別講演、「胆道癌の治療、現況と対策」を中心としてお話をいただけるそうでございますが、班長をされました厚生省癌特別研究胆道癌の集学的治療、本年5月主催されました胆道外科研究会での全国集計、それに加えて御自身の教室、関連病院の成績を加えての幅広い視野からの御講演ということで楽しみにいたしております。水本先生宜しくお願ひします。